

平成30年度第1回高梁市総合教育会議 会議録

1. 招 集 平成30年5月23日 午前10時00分
2. 開 会 平成30年5月23日 午前10時00分
3. 閉 会 平成30年5月23日 午前11時57分
4. 会議の場所 高梁市図書館 4階多目的室
5. 出席、欠席した構成員の氏名

氏 名	出欠の別
近 藤 隆 則	出 席
小 田 幸 伸	出 席
吉 川 昭	出 席
山 内 廣 子	出 席
川 上 は る 江	出 席
和 久 野 慶 子	出 席

6. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
政 策 監	前 野 洋 行	
健 康 福 祉 部 長	宮 本 健 二	
参 与	田 村 啓 介	
総 合 戦 略 課 長	西 本 隆 之	
こ ど も 未 来 課 長	赤 木 憲 章	
教 育 総 務 課 長	大 福 克 志	
学 校 教 育 課 長	石 原 洋 重	
社 会 教 育 課 長 補 佐	川 上 英 嗣	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	川 上 啓 二	
文 化 セ ン タ ー 所 長 代 理	原 田 貴 子	
教 育 総 務 課 総 務 係 長	村 上 靖 恵	

7. 協議題

- (1) 文化センターにおける指定管理者制度導入に向けて
- (2) スポーツ推進計画の策定について
- (3) 方谷記念館整備事業について
- (4) 部活動指針の策定について
- (5) 県立高校の在り方を考える協議会について

8. 議事の概要

- 1 開会
- 2 あいさつ（市長）

高梁市では行財政改革を進めているが、その中で施設の見直しは避けられない問題となっている。施設数は類似団体に比べ、約40%過剰との結果が出ており、教育施設も例外ではなく、今後の方向性を議論していく必要がある。補助金等も見直しも行っていくつもりである。市町合併時に引き継ぎ、そのまま残っているものも多く、統一化が必要となっている。現在は内容整理を進めている段階であるが、いずれ教育委員会の会議や議会にも諮らせていただくことになると考えている。

高梁市街地のこども園も課題である。公立幼稚園2園、公立保育園1園は、基本的にこども園化という方向で進めており、当初の予定より若干遅れているが、場所等について30年度中には検討を行うつもりである。現在、幼稚園の定員と通園人数に大きな乖離があり、早い段階での認定こども園化が必要との思いを持っている。

協議題にもあるが、県立高校の在り方について、現在の学科を維持してほしいと県に申し入れている。それには課題も多いが、一つひとつクリアすべく、市でできるところは市で取り組み、県においても生徒確保に向けた取り組みを進めていただきたいと思っている。

定住対策では、移住者に来ていただいているものの、それ以上の転出があり、残念ながら昨年2%ほど人口が減少した。非常に厳しい状況であり、子どもの数も減少してきている。喫緊の課題ではあるが、特効薬というものはなく、いろいろな手段・手法を見つけて、まずはやってみるしかない。

高梁で育った子どもたちが大きくなって社会に出たときに、周りからも高梁の教育は素晴らしいと言ってもらえるような教育の素地を作っていきたいと思っている。

3 協議題

文化センター所長代理	別紙資料により「(1) 文化センターにおける指定管理者制度導入に向けて」を説明
市長	文化センターのうち、基本的には総合文化会館の指定管理者制度導入を考えているところである。
吉川教育委員	舞台業務委託料が年間約1千万円との説明があったが、総合文化会館と文化交流館の舞台業務は1者が掛け持ちで行っていると聞いていたが、これは両施設で1千万円ということか。
文化センター所長代理	それぞれの施設で1千万円である。

<p>市長 吉川教育委員</p>	<p>過去の経緯もあり、その辺りの整理は必要である。</p> <p>現在の総合文化会館の役割の一つに清水比庵記念館があり、文化交流館の中には歴史美術館がある。山田方谷記念館の旧図書館への整備については後の協議題になっているのであるが、一つの案として方谷記念館を文化交流館内に整備するという方法もあるのではないかと考えている。市全体の土地が少ない中、各施設とも駐車場が確保しにくいといった問題も抱えており、また、先ほどの市長の説明にもあったこども園についても、整備する場所によっては運動できるスペースが確保できるのかといった課題も出てくるかと思う。私の個人的な意見としては、例えば現在の高梁保育園の場所へこども園を整備するとすれば、可能なら福祉センターに移転いただき、その跡を運動場にするという方法もあるかと思う。そうすると方谷記念館も本当に旧図書館でよいのか、現在の高梁幼稚園を活用することも考えられるのではないかと。今の時点でこれがベストとして方谷記念館の場所を選択されたのだと思うが、何年か後にはこども園を整備しなければならない、方谷記念館の整備も求められている、施設の駐車場も必要、観光導線の確保など全体的に考えていかなければならないのではないかと。総合文化会館の指定管理者制度導入についてはやむを得ないと考える。いずれは文化交流館についても導入しなければならないという思いも持っているところである</p>
<p>市長</p>	<p>立地適正化計画を策定しており、その中で都市機能誘導区域を定めている。公立・民間を含めて、こういう機能はこのエリアに集約しようというのが城下町を除く市街地エリアである。集約を進める中で、ご意見にあった課題という部分は十分念頭に置きながら土地の利用計画を考えていく必要がある。後の協議題となるが、方谷記念館についても永久的に現在の計画の位置でよいのかという課題も持っている。</p>
<p>教育長</p>	<p>文化交流館内には山田方谷のさまざまな史料があるが、歴史美術館としての役割からは、方谷に限らず、総合的に高梁の歴史部分をしっかりと展示して見ていただく必要もある。また、観光導線を考えると、駅から備中松山城までの間に方谷記念館を配置する必要もあり旧図書館となった。建物の性質から本物の史料の展示は難しく、写真やレプリカ展示によって方谷の概要を理解していただくためのガイダンス施設という位置付けとなる。また、今後の構想も踏まえ、パネル等で稼働もしやすい設計を考えている。</p>
<p>スポーツ振興課長</p>	<p>別紙資料により「(2) スポーツ推進計画の策定について」を説明</p>
<p>市長</p>	<p>年齢に関係なくスポーツに取り組んでいただくため、スポーツ推進計画を策定しているところである。</p>
<p>川上教育委員</p>	<p>先般の定例教育委員会でも話があったが、中学校の部活動の問題と絡んで、中学生の体力低下が大きな問題となっている。その中で、スポーツ推進計画を進めていただくことはありがたいが、PTAや公民館との連携も考えながら進めていかないと中学生の体力の向上は難しいのではないかと意見があったと思う。現状を見る限り、小学生は中学生に比べると外遊びをしているが、ゲームをする子どもが非常に多くなっている。中学生の場合も部活動で一生懸命スポーツをしている子ども以外はゲームをする傾向にあり、活字離れとともに、青少年の生活</p>

スポーツ振興課長	<p>リズムの中でゲーム等が与える影響は、大きいのではないかと考えている。だからこそ、PTAとの連携を取りながら、子どもたちの体力維持のための方向を進める視点は大切にしていきたい。公民館との連携については、例えば玉川地域では老若男女が集まって卓球やグラウンドゴルフの大会を開催しているが、非常に充実してきていると感じている。このように三世代が交流する中で、中学生が参加してくれることもある。スポーツ推進員も連携しながら、公民館活動の中で体力向上の取り組みを充実させることも大切ではないだろうか。</p>
市長	<p>関係団体、各種団体との連携ということについては、計画の中に盛り込んでいきたいと考えている。</p> <p>就学前の子どもが親と一緒に外を連れて歩いてもらう時間の違いによって、小学校、中学校での体力にも違いが出てくるというデータが文部科学省か厚生労働省から出されている。就学前からの取り組みが、将来に繋がるという意識を持ってもらうことも必要であろう。</p>
吉川教育委員	<p>歩かない、遊ばない子どもたちが増えてきているのは確かである。例えば雨の日に傘を差して歩いて行くことができるにもかかわらず、学校の校門には親の送迎の車がずらりと並んでいる。PTAとの連携ということでは、そうしたことから保護者の意識改革、啓発の必要もあるのではないかと。また、誰もが年間を通じて気軽に通えるプールやジムといった設備を備えた総合的な施設があればということは、多くの市民が願っていることではないか。大きな事業となり難しい面もあるとは理解しつつも、推進計画の中に盛り込まれればと考えている。</p>
山内教育委員	<p>中学校の部活動の様子を見てみると、土・日もなく、放課後もずっと練習していて、休みも他校に練習試合に出向いたりしている。勉強する時間があるのかと思うくらいなのだが、そうやって部活動を頑張っている中で体力が低下しているということが疑問である。</p>
和久野教育委員	<p>推進項目の中に「誰もが安心して利用できる施設の整備」ということがあるが、私は高梁に来て8年近くになるが、子育てしている中、子どもを預けないと何もできない状況が何年も続いており、ずっと運動らしい運動ができていない。高梁では、母親の集まりでもヨガやストレッチくらいはあるが、託児があり毎週定期的に卓球やバレーボールといった本格的なスポーツができることがないと思っていた。そうした希望をどれくらいの人を持っているのかは分からないが、自分の体を思うと何年もスポーツしていないことで体力が低下してきていると実感している。親子サッカー教室等も対象が小学生と保護者で、下の子どもがいるから参加できないということもずっと続いているので、単発で子どもを預けられるようなサービスがあれば、もっと気軽にスポーツに参加できる母親も増えるのではないかと個人的には思っている。</p>
市長	<p>福祉分野の視点からの検討も必要かもしれない。</p>
教育長	<p>アンケートを取ったが、日常的にスポーツをしている市民の割合は27%で、全国平均が40%超であった。</p>
スポーツ振興課長 教育長	<p>この数字は10年前とほぼ変わっていない。</p> <p>地理的な要因、人が集まりにくいといったことを差し引いたとしても割合が低すぎる。何らかの対策をしていかないと、スポーツだけの問題ではなく、将来の健康といった医療等の問題にも発展していくことなので、かなり深刻な問題と認</p>

市長	<p>識している。きめ細かい配慮がどこまでできるかは別としても、少なくとも皆さんが今よりも運動しやすいようなものであるとか、歩いたり走ったり、道具がなくてもできるものの普及とか、総合的に考えていく必要があると思っている。</p> <p>いろいろとよいご意見をいただいた。これから計画成案化に向けて、しっかりと推進項目の中で検討がなされるものと思う。これは、教育委員会でもご協議いただくことと思うし、中間報告の際にもご意見いただければ幸いである。</p>
社会教育課長補佐	<p>別紙資料により「(3) 方谷記念館整備事業について」を説明</p>
山内教育委員	<p>すでに10月開館で進んでいるようなので、あえてここで経費面について言うこともないが、開館に伴っては人件費等の経費も掛かる。また、本物の史料は文化交流館で展示ということであったが、余分な経費を使わなくても1カ所で管理されればよいのではないかという思いはある。方谷記念館は観光導線上必要ということでもあるので、最小限度の経費に収めていただければと思う。川上町でも美澤進先生の記念館があったが、すでに閉館となり、史料は地域局に移されている。ある程度まとまったところで管理していただき、多少でも人件費等経費の節約をお願いしたいと思う。</p>
吉川教育委員	<p>何点か質問させていただく。まず入館は無料とするのか、次に建物の耐震は大丈夫なのか、3点目に建物の2階はどうなるのか、4点目にトイレは階段踊り場のものかと思うがどう改修するのか、最後に人員配置はどうなるのか。</p>
社会教育課長補佐	<p>入館料については、これから施設の設置条例を制定する予定で、隣接する有料施設の郷土資料館との兼ね合いもあり検討が必要である。耐震については、建物が昭和47年のもので耐震基準は満たしていないと思われるが、今回の改修工事には含めておらず、今後の検討課題と考える。今回改修するのは踊り場のトイレではなく1階のトイレで、男女を分けた形で整備する予定としている。2階については、郷土資料館で預かっている民具等で展示できていないものをこちらに移し、収蔵スペースとして整理を進めているところである。人員配置については、これも郷土資料館との兼ね合いがある。専属で1人お願いする予定であるが、同じ敷地内に2つの施設があるので、郷土資料館の現在の臨時職員と合わせて配置を考えていく必要があるかと思っている。</p>
市長	<p>最初の協議題の中でもあったが、保育園も含め、エリア一帯を最終的にどうするかということはまだ決まっていない。特に観光導線上でこれまで方谷の紹介が十分にできていなかったため、建物は確かに耐震基準を満たしていないと思うが、大規模改修することなく、簡易な形で紹介することを考えている。本格的に整備するのであれば別の場所であろう。まずは皆さんに見ていただくということに主眼を置き、そして最終的にしっかりしたものを整備できればという思いは持っている。高梁には先ほどの美澤先生や綱島梁川先生、川上景年先生など多くの偉人がいるが、なかなか皆さんに知っていただく機会がない。常設でなくてもよいので、何か紹介することができないかと思っているところである。</p>
川上教育委員	<p>市長の説明では、今回の方谷記念館については、将来的には駐車場のこと、こども園のこと、それらを総合的に考えながら、きちんとした構想の下で整備を進めていく中での過渡期として、既存施設を利用し、山田方谷をもっと知ってほし</p>

<p>市長 川上教育委員</p>	<p>いということによいのか。 そのとおりである。 やはり教育活動の中で、この記念館を上手く活用することを考えた方がよいのではないか。小学校で方谷の調べ学習をするときに、関連施設が点在しており移動が必要なので、市のバスを借りて調べて回ることが多かったが、記念館のパネル展示等が地元の小学生たちが気軽に行って調べる材料となり得るようなものであればよいと思う。今、方谷のアニメーションを作ったり、道徳の資料も作ったりしているので、そうしたものも含めて総合的に教育活動の中で活用するという視点で考えてもよいのではないだろうか。</p>
<p>市長</p>	<p>いろいろなご意見感謝する。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>別紙資料により「(4)部活動指針の策定について」を説明</p>
<p>和久野教育委員</p>	<p>体力テストの結果を見て、前の協議題の中でも通学時に歩かない子どもが多いという話があったが、中学校の統合によるスクールバス通学で歩くことが少なくなったことが、中学生の体力低下の原因にもなっているのではないかと個人的には感じているところである。自転車で通う子どももいるが、歩くことが一番体力のつくことではないかと思っている。毎朝学校に着いてから、勉強だけでなく、みんなで歩くなり走るなりの機会も必要ではないだろうか。私は大阪で生まれ育ったが、中学校は通学するのに自転車も禁止で、片道40分かけて歩いてくるような生徒もいた。こうして毎日歩いていたので、運動をしていない文化部などの子どもたちも自然と体力がついていたのではないかと思う。山間部では子どもたちに山道を歩けというのは厳しいところもあるので、やはり学校に着いてから、何か体育以外で運動する取り組みも必要ではないか。子どものころの体力は大人になってからも影響すると思うので、今の子どもたちが心配である。</p>
<p>教育長</p>	<p>通学であまり歩かないということは小学校でも中学校でも増えているし、大人自身も歩くことが減っている。今、男女合同体育が中学校で実施されているところもあるが、内容はスポーツを楽しむような体育で、心拍数が2倍以上になるとか、勝負にこだわって徹底的に競い合うとか、体が強くなるような体育があまり行われていない状況である。小学校では体力づくりとして、体育以外のことも含めて全校的に取り組んでいるが、中学校は部活動に頼りきってしまい取り組みができていない面が強い。例えば、有漢中学校は小規模校であるが、駅伝で男子が優勝、女子が2位と、全員参加の取り組みの中で子どもたちの体力がついている。体力づくりは、勉強面や生徒指導の面にも関連してくる。先ほどの地域でのスポーツの在り方も含めて、総合的に検討し方向性を出して取り組んでいかなければならないと思っている。また、部活動の在り方としては、最終的には統合が必要となるかもしれないとも思っており、総合的に考えていく必要がある。</p>
<p>吉川教育委員</p>	<p>限られた学校の生活の時間の中で、学力低下が叫ばれたら朝の学習タイムということで、10分間の朝学習があったり朝読書があったりと、各学校が学校全体の教育課程の中で取り組まれていることではあるが、私が勤務していた学校で思い出すのは福地小学校である。登校したら、子どもたちはとにかく体操服に着替えて外に出て遊ぶ。決まった時間が来たら運動場を少し走って、それから校舎に</p>

	<p>入って授業が始まる。朝のわずかな時間ではあるが、汗をかいて子どもたちの顔色もよくなるし、血液の循環もよくなるし、脳も活性化するし、非常によいことだと思っていた。ちょっとしたこともかもしれないが、これが学校の伝統となっていた。子どもたちの体力向上のために何かに取り組むとすると、朝マラソンをしようとか、それぞれの学校が考えていくことではあるのだが、何か気軽に続けられる取り組みができたらいと思う。それから文化部の活動については、文化部があるのは高梁中学校だけで、合唱部、美術部、科学部となっているが、例えば吹奏楽をしたいという中学生もいるのではないか。現状でいうと、高校に進学して高梁高校や高梁城南高校に行けばブラスバンド部を選択することもできる訳だが、もし中学生のうちに楽器に触れてみたいという子がいるのならば、公民館や高校等と連携して、もしくはサークル的な活動で、週に一回でも楽器に触れられるような場が持てればよいのという思いは持っている。</p>
川上教育委員	<p>教育委員会で総合的に検討して方向性を示した後は、中学校の生徒会を上手く活用し、生徒たちに体力低下の実態を示して、生徒たちが取り組む方向を主体的に決めていくことが大切ではないか。大人から言われたことでなく、生徒たち自身が決めたことはきちんと取り組んでいくのではないだろうか。私たち大人が体力テストの結果を見て、県下ワースト1位ではいけないと思うように、中学生もこれではいけないという思いを持つと思う。そのように主体的な取り組みを生徒たちが決めるようになれば、現状も変わってくるのではないかと思っている。</p>
市長	<p>通学にしても何にしても昔とは変わった。自分が子どものころは山道を1時間かけて歩いて通っていたが、楽しかった思い出が多い。やはり外に出るということは大切だと思う。学力テストは1位で、体力テストは最下位と、ギャップが大きい。こうした課題を解決するために検討を進めていこうということで、またいろいろとご意見もいただくことになると思うのでよろしく願います。</p>
学校教育課長	<p>別紙資料により「(5) 県立高校の在り方を考える協議会について」を説明</p>
市長	<p>県立高校の在り方を考える協議会については、すでに何度も会議を行っているが、高梁城南高校が今春から1学科募集停止になったということもあり、強い危機感を共有しているところである。</p>
山内教育委員	<p>高梁高校は、募集定員に対して志望者数が減少している。その中での入試の在り方であるが、定員が足りないために、学力基準にかなり達していない子どもも入学しているような状況がこのほど見受けられたように思う。現在、市内に普通科は高梁高校のみで、国公立大学への進学率は、他の地域の高校に比べて高いということであるが、だんだんとレベルが下がっていくようなことになれば普通科としてどうなのだろうかと、私ばかりでなく、保護者や子どもたちからも多く意見を聞いている。学力基準に達していない生徒も入学させている状況では、一緒に授業を受ける中で足を引っ張る生徒もかなり出てきている状況もあるように思う。例えば進学コース等を設けてコースごとに募集し、志望コースごとにクラス編成するようなことができればよいのではないかと思っている。県立高校の在り方を考える中で、高梁高校のレベルをどの程度に維持していくのかということも大切だと感じている。定員にこだわり、志望すれば誰でも入学できるというよ</p>

学校教育課長	<p>うな入試が行われる状況になってしまえば、中学生にも勉強しなくても進学できるという感覚を持たせ、学力低下を招いてしまう恐れもある。今後、全国募集を行っていくのであれば、その辺りも踏まえ考えていく必要があるのではないかと。全国募集の定員の割合を5%から20%に引き上げるというのは、高梁城南高校のデザイン科に限ったことか、高梁高校の普通科も含まれているのか。</p> <p>高梁城南高校はデザイン科の全国募集を打ち出しているが、まだ決定事項ではない。高校として一つの枠で20%という方法もあるし、今は一つの科で5%となっているので、これは検討していく必要がある。高梁高校については、現在、基準として全国募集ができないため、実施しない。</p>
山内教育委員 学校教育課長 吉川教育委員	<p>学区外の5%の枠はあったと思うが、どうなっているか。</p> <p>学区外の5%の枠はある。</p> <p>高梁中学校に勤務していたときの3年間、学期ごとの高梁高校の学校評議員制度の会議に参加し学校の様子をお聞きしていた。高梁高校、また高梁城南高校もだと思うが、特色ある魅力ある学校づくりに一生懸命取り組まれ、地域のイベント、例えば地紅茶まつりや紺屋川のキャンドルナイト等にそれぞれの高校の生徒が参加している。自分たちの高校時代ではあり得なかった、高校同士が連携して合同で何かをする、生徒会が動くといったことが非常に活発化し頑張っておられる。そうした中で昨年度、高梁小学校が高梁高校の生徒を招いて夏休みにサポート学習教室を開いたり、陸上の指導をお願いしたりということは非常に素晴らしい取り組みである。今後ますます高校と中学校、高校と小学校の連携が大切と思われるので、小・中学校の校長、高校の校長との情報交換といったものが濃密になっていくべきではないかと感じている。市立高校と中学校の校長は、年に一回、校長連絡会議というものを開催しており、そうした場も活用して互いに連絡を取り合いながら、新しい取り組みも探っていってほしいと願っている。</p>
和久野教育委員	<p>私の子どもは小さく、高校はまだ先のことではあるが、地元の高校に進学してくれば通学も近くてよいのにといい思いはあるものの、高校は将来に繋がっていく選択になるので、やはりどこの高校に行っても同じということにはならないのだと思う。高梁高校にぜひ行きたいと思えるような情報が入ってくる機会が多いとよいと思う。一般市民としては、地域のイベントで生徒が頑張っていることはニュースで分かるが、高梁高校としての特色や魅力が分からない。どこがアピールポイントなのかいうことは疑問に思っていて、PR不足なのであればもっと全面的に打ち出す必要があるし、なければ作っていく必要がある。また、高校生が小学校を訪問する取り組みは現在、高梁小学校だけのようなのであるが、連携を強化するということでは、出身の小・中学校を高校生が訪問して、高校ではこんなことができる、こんな勉強ができるといったことをPRする機会があれば、子どもたちも身近な先輩の話を小さいころから聞くことで、自然とその高校へ行きたいと思えるようになるのではないかと。</p>
教育長	<p>市内の県立高校だけで現在275人の定員があり、中学生の数は約230人、将来的には100人台になる可能性もあり、全員が進学しても定員に足りないという非常に厳しい状況がある。実業系は全県学区で、普通科は旧北房町等も高梁の学区となっており、通学調整区域となっている吉備中央町からも進学が可能なので、今年度は最終的に定員の95%まで確保ができた。今後70%程度に落ち</p>

	<p>込むようなことになれば、存続できない可能性も出てくる。先ほどの戦略を持って取り組まなければならないということも含めて、やはり高校が魅力ある教育をしているということがあってこそ、PRもできるし志望者も集まるので、まずそこを頑張ろうということであるが、県立高校の先生は平均的に7年ほどで異動してしまう。私立高校のようにずっと同じメンバーが集まって取り組むという訳にはいかないので、学校がよい体制を整えてその中で取り組んでいくしかない。しかし、地域が学校に対していろいろな支援していくことは、継続的にできて、特色ある取り組みもできるので、県立高校の在り方を考える協議会では、学校の取り組みを地域でしっかりと応援していこうという姿勢である。中学校に関しては、高校から保護者へ学校の説明をしたいという希望があれば、参観日の日に来てもらうといったことはずっと取り組んできていることであるが、そうした機会を小学校にも広げるということもやっていきたい。地道な取り組みを積み上げて、学校と地域の連携を深めて取り組んでいくしかない。人口によって高校の科や募集定員が決められてしまうと、備北地区の高校は消滅してしまう。募集定員は少なくともよいから、備北地区の中で商業、工業、普通科など地域の高校の持つべき機能を維持していくことを最後の砦として、今のところは取り組んでいこうとしている。科の在り方についても、高梁の企業が求める機能というもあるので、ニーズに応じた科を増やしたりシフトしたりする必要もあるかとも思っている。</p>
山内教育委員	<p>高梁高校ならではの特色と出すためには、まずは高校へ通っている生徒自身が誇りを持って自分の高校をPRできるようにならないといけないと思う。高校が小・中学校へ入っていくということもよいが、例えば大学等から講師を招いて、この大学へ進学しようという希望を持たすような学習の在り方、大学とも連携した体制づくりというものも必要なのではないかと。志望者数が増えなければならぬので、進学コースといったコースも新たに作ってあげればよいのではないだろうか。私立高校であるが、さまざまな魅力あるコースを作って募集し、募集定員に対して何十倍もの志望者が集まった例もある。県立高校も、定員割れを起こさないような募集の方法というものも研究していただきたいと思う。</p>
市長	<p>県立学校の教員は県費である。学校教育課の説明にもあったように、高校の教員定数は小・中学校と異なり募集定員で決まるが、文部科学省が経費を負担するという訳ではなく、財源は総務省からとなっている。そこで枠が決められているので、定員を減らすということも今のところできていない状況である。小・中学校と同様に、募集定員ではなく、クラス数や学科数によって教員定数が決定できるよう、公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律の改正を求めていく必要があると思う。高梁高校も高梁城南高校も存続できるのかという非常にシビアな問題である。大学の入試方法が変わるのはいつからだったか。</p>
学校教育課長	<p>現在の高校1年生が大学を受験するときからである。</p>
市長	<p>大学には入りやすくなるが、卒業は非常に難しくなるということなので、自分の将来を決めるときに大学でしっかりと勉強する必要がある訳だが、それには高校のときにしっかりと基礎的学力を身につける必要がある。高校でそうした部分をどう育てていくかである。</p>
教育長	<p>今、高梁高校は、入学したときと卒業直前の学力試験の伸びの差が県下の同規模の学校の中でずばぬけており、学力が着実に身につくということをアピールし</p>

和久野教育委員	<p>ている。高梁城南高校についても、実業高校として高い就職率である。各校ともホームページ等が充実されてはいるが、その辺りの広報がまだ十分でない面はあるかもしれない。</p> <p>高校は先生の転勤もあるし、子どもの数も減っていく中、誰が高校を守るのかと言えば卒業生であると思っている。私の出身高校では同窓会組織が大きく、みんなが誇りを持っており、同窓会で高校を盛り立てていこうと出身高校に投資をしている。部活動の指導者も外部から招いているが費用は同窓会で負担しており、現役高校生の海外留学についての費用も同窓会からである。県立高校を存続させるためには、同窓会組織にも頑張ってもらい、一緒になって魅力ある学校づくりに取り組んでほしいと思う。</p>
市長	同窓会組織の大切さは感じているところである。
和久野教育委員	<p>行政からの費用を待ってはいできないことも多いので、生徒にパソコン設備を整備したいとかエアコンを設置したいといったことあれば、私の出身高校では全て同窓会が支援していた。みんながよい学校にしたいという思いで、周年ごとの寄附金等で協力してきた。よい先生を招くとか設備を整えるといった環境づくりは大切なので、みんなで学校を守ろうとするのであれば、高校では卒業生の力が大きいのではないかと個人的には思っている。</p>
山内教育委員	以前は同窓会何期生での寄附といったものもあったが、いつの間にか自然消滅している。
和久野教育委員	<p>支援してくれている同窓会からの目があるので、学力を落としてはいけないし、生徒募集も頑張らなければいけない、先生たちも必死にさせられるような雰囲気があった。ずっと変わらず学校に関わりを持つことができるのは卒業生であるので、そうした組織に頑張ってもらいたいと思う。</p>
市長	長時間にわたり、活発にご協議いただき感謝する。今後も教育委員会等の場でも、皆さんといろいろと協議させていただきたい。

4 その他

5 閉会

あいさつ（市長）

本日の協議題は、いずれもこれからの高梁市の子どもたちにとって、また市民の皆さんにとっても大切なことだと思うので、その理解を皆さんに求めていく必要がある。こうした活動や情報を市民の皆さんに十分お伝えすることで、新たな発想やご理解をいただけるものと思っている。すぐに取り組まなければならないこと、すぐには答えの出ないものもあるが、引き続き教育委員の皆さんと情報を共有し、取り組んでいきたいと思っているので、今後ともよろしく願います。